

# つるのおんがえし



「ご縁」をいただいたあなたへお届けする、「大きな想い」の「小さなお手紙」



キャンプで家族をアップデート中

大人が教えなくても  
子供が勝手に  
遊び方を見つける!!  
それがキャンプ

## 思いのままに 生きています



こんにちは、感動・創庫の  
芦川永光です。ついに新しい  
世界への扉が開いた！と私  
自身は感じておりますが、皆  
さんは今とどう向き合って  
いますか？空気を換えたい  
のであれば、変わった空気そ  
のものに私はなる！という  
ことで、いつものテンション  
とハイクオリティ(笑)その  
ままに、今回も楽しく書かせ  
ていただきます。

### 私の中では収束済みです

最近ではオンラインでのや  
り取りにのめり込んでいま  
す。学び、コーチング、ちょっ  
とした相談事まで、この楽し  
い感覚は以前、ミクシィや  
フェイスブックを始めた頃

に似ていて、何もかもが刺激  
的に感じているんですが、あ  
の時と違って「仕事のために  
やらなければならない」とい  
う必要性に一切とらわれて  
いません。新しいことを始め  
る時、以前の私には「これを  
始めないと取り残される」と  
いう強迫観念がありました。  
そうやって煽ってくるビジ  
ネス本、多かったですから  
ね。流行に乗り遅れちゃうガ  
ラパゴス化しちゃうよー、っ  
てね。

今回の騒動に対する解釈  
は人それぞれだとは思いま  
すが、やっぱり私は良い兆し  
ではないかと確信していま  
す。だから、強迫観念を生み  
出すような恐れがないんだ  
と思います。あと鈍感力も  
ちょっと、ですかね。ウイル  
スについてもだいたい正体が  
つかめてきて、事実として日

本だけが突出して人数が少  
ないという状況下では、例年  
のインフルエンザ以上の被  
害には至らないでしょうし、  
もはや恐れる必要はまった  
くないと感じます。海外も含  
めて、色々な方のお話を見聞  
きするようにしていますが、  
日本国内では半年以上前か  
ら蔓延していたのではない  
か？との意見を見た時、私  
の中では色々な回路がつか  
なれた感じがしました。そう  
いえば昨年末に子供達と一  
緒に熱を出して、病院へ行か  
ずに1週間くらい寝込んだ  
なあと思いついたんですよ。  
アッって普通の風邪を引い  
たのと変わらなかつたけど、  
マスクミがしきりに煽って  
いるソシほどではなかつた  
なあなんてね。広告の仕事を  
していますと、こういう状況  
には何かの意図があるのは  
重々承知ですから、こういう  
情報に対する免疫はウイル  
ス耐性なんかよりもはるかに  
強いつつことですね(笑)。

### 「空気が変わった世界」

前回もお話をしましたが、  
今すぐの問題は、私たちが恐



感動・創庫

料金後納  
郵便

ゆうメール

株式会社 感動・創庫  
kando-soko

〒259-1145

神奈川県伊勢原市板戸208-103

☎0463-79-9777 FAX0463-79-9778

れを重ねて醸成してきたこの空気です。空気を変えるためにどうするかは、最初にも言いました通り、私たち一人一人が願う世界、そのものになることです。

**マスクしてないんです、私**

私がマスクをせず、普段通り外を出歩くのには、意固地とか面倒くさいとかいう感情は全くありません。これは私なりの全体最適を選んだ結果なんです。事実、保育園

にこのままいくと先生方は不安になるところか、私の顔を見て安心してくれるんです(そう表情から感じられるすかね。マスクだらけの中に、能天気なやつが現れるとホッとするんですよ、多分。

屁理屈でも意固地でもなく、良心を持って、部分最適



太陽バッチリ浴びて子供たちも元気にたくましくなりました



よりも全体最適を選びたい。

私はこの騒動の中でも、人類は無意識を意識に上げるだけで、家の外でも中でもアップデートはできると確信します。さあ、空気をガラッと変えましょう。そのお部屋

の空気に最も影響を与える、私たち自身が纏っている空気から。

「なぜ？」を

深く考える機会

今回のコロナ騒動は、影響を受けていない人を探すのが難しいくらい、大半の人が何かしらの制限や大なり小なり不安を抱えて、過ごしていらっしやるかと思えます。

私たち感動・創庫は内部留保を持たずに、ひたすら従業員に還元してきた、いわゆる自転車操業。ですので、お客様

がしんどい中で私たちも同様にしんどくなりまして、売り上げは昨年比の半分かそれよりも低い水準です。いやー、なかなか大きめのチャンスがやってきましたね。

この仕事をしていますとよく聞く話で、「世界恐慌の時には広告を出し続けた人たちが生き残った」というものがあります。それは事実としてあったかもしれないけど、私にとっては今回もそう

だ！との確信に至っていないところで、さらにその上を行かなきゃなあと感じるわけです。

今回は、震災後のように足りないものを補ったり、壊れたものを直したり、少ないものを増やすといった産業に置き換えられる要素がほとんどないので、いつどこが回復するタイミングなのか、経済的に見たら正直よく分からない。むしろ、必要と必要がより整理されて、全体的に減らしていく方向に向かうはず

そこで、これから出していく広告には、実用性や楽しさよりも、「ビジョン」なぜ私

ちが存在するのか？」を示すことが求められるなど感じるわけです。何故なら、ビジョンはいくつあっても競い合うことがなく、優劣もつかないからです。

個人においてはこの分かれぐらぐら混沌とした世界を前に、否応無しにアップデートを迫られるはず。そして企業もこれまでの生き方を見直すことを強いられる

す。私たち事業者は例外なく、幸せを目指して事業をしてきました。この幸せの条件としていたのは「お金であり、お金をより多く得ること

を最優先に営んできたのは、根底に恐れがあるからでした。この恐れに向き合い、次の10年に本当にやりたいことをビジョンで示せるのならば、広告でやってみる価値はあると確信します。

お金に向き合って見えた感動・創庫の現時点でのビジョンは、「思いのまま生きられる人が育って学べる巣立ちの会社」。やっぱりツルだから鳥のイメージなのかしら!?

編集後記

0歳からのオンラインミーティング

私が毎朝5時半起きを始めるだいぶ前から、千弘は早起きでした。0歳児に適切な言葉かどうかは分からないんですが、シヨートスリーパーなんです、彼。

4月から毎朝6時のzoomでの学びの時間は、ここまで皆勤賞。一緒に起きてくる千弘ももちろん皆勤賞でして、抱っこ紐を使ってあやしながらのオンラインミーティングは、私たち親子の定番スタイルになりました。

最近仕事に子供を連れ回したりしているって以前お伝えしましたが、ここ最近子供が家にいる時間も増えている中で、何かうるさいから集中できないとかも感じなくなつて、仕事が「しなきゃならないもの」っていう、そもそも感覚もだいが薄まっちゃったんです。この自粛期間はストレス多いのかっていうとそうでもなくて、これってやはりオンラインで人と人の距離がほぼなくなつたおかげでしょうか。

オンラインでたくさんの方がこちらを見て、話しかけてくる画面を毎朝見ている0歳児は、ここからどんな世界を生きるんだらう。考えるのはだいぶ先のことですが、オイラ、長生きして、なあって思いました。

オンラインミーティングで子供を登場させるとその場が一気に和みます。ダシに使うってやつ! (笑)

